職員における自己評価

事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス　サトヤマキッズ

回答者　サトヤマキッズスタッフ（8名）

		チェック項目	はい ← → いいえ 5・4・3・2・1	工夫していることや意識的に行っている取組等	課題や改善すべき点
環境整備	1	こどもたちの生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になるように努めていますか。	4.1	・換気を適宜行い、なるべく整理整頓をするようにしている。 ・物を置きっぱなしにしないように意識している。 ・空いた時間で掃除をするよう務めている。	・建物の特性上、温度差が激しい。 物が乱雑になりがち、今一度おもちゃの片付け場所を決めたい。 ・消毒のルーチンを見直したい。
	2	こどもたちが活動の見通しを持てるよう、構造化された空間で視覚的な配慮や、スペースのゾーニングを行っていますか 。	4.1	・構造化を行い、視覚的に見通しを持てるように支援している。掲示物が破損した場合にはすぐに直している ・来所時の流れを視覚化、始まりの会に座る場所、ボール遊びの場所等、ゾーニングをしている。	・部屋数やスペースの問題でゾーニングが難しい場面がある。 ・集団活動時の視覚的な説明を改善したい。
適切な支援の提供	3	児童の特性を深く理解するために、アセスメントツールや研修で得た知見を、日々の支援に具体的に活かしていますか 。	3.9		・研修で得た知識を実践に結びつけられるように自分で学び身につけていきたい。 ・アセスメントツール（感覚・運動）を活用できるようにしていきたい。
	4	こどもたちの心身発達の課題に対し、根拠やねらいを持って活動プログラムを組み立てていますか 。	4.1	・飽きの来ない活動を考えたいと日々思っている。 ・その日の子どもに合わせた活動内容を考えている。	・自分たちだけでは知識の広がりに限界があるので、社外の専門家等にも助言を受けてみたい。 ・段階的な活動のプログラムを意識していきたい。
	5	活動プログラムの立案をチームで話し合えていますか。	4.0	・常に事業所内で話し合っている。 ・同じ活動にならないよう意識している。	・放課後の活動は一人での立案になりがちなため、もう少し連携をしたい。
	6	こどもたちが飽きずに意欲的に取り組めるよう、活動内容を固定化せず、日々新しい工夫を取り入れていますか 。	4.1	・運動器具を新調し、マンネリ化しない工夫をしていると思う。 ・SNS等で紹介されているものも参考にして取り入れている。	・今とは違う視点での活動内容も取り入れていきたい。 ・こどもたちにとって「運動」という意識ではなく、「遊び」になつる遊びを考えている。
	7	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を組み合わせた支援を意識していますか。	4.0	・時間は限られるが、個別対応（トイトレ、書字練習等）を行っている。	・限られる時間の中で、個別活動が難しい点もあるが、今後充実させていきたい。
	8	地域と交わるイベント等の機会に、児童が社会とつながり、多様な経験が得られるよう積極的にサポートしていますか 。	4.1	・グループ会社のイベント（祭り、老人ホームとの交流）地域の祭りへの参加出来るようにしている。	
個別支援計画	9	職員間で個別支援計画、活動内容を共有し、チームとして統一した方針で支援を提供できていますか 。	4.3	・支援員によって対応が違うと、児童は混乱するので同じ認識を持って対応できるよう話し合っている。 ・ケース会議の開催、面談後の情報共有を行っている。	・会議等があった際に出勤していない職員に対する情報共有に難しさがある。
	10	保護者ニーズと児童の状況を客観的に分析し、本人・家族の視点を含めた計画を作成していますか 。	4.3	・子どもの状況や保護者の願いを意識し、計画を作成している。	
	11	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っていますか。	4.7	・期間が切れないように見直しをおこなっている。	
業務	12	支援開始前には職員間で打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っていますか。	4.4	・その日の状況によって、サポートが必要な個別支援など共有して行っている。 ・朝礼、午後の打合せを毎日行っている。 ・毎日のミーティングで活動の流れを共有している。	・子どもを待たせてしまう時間が多くならないよう、他のスタッフと連携をしたい。 ・学休日や下校が早い日にミーティングができないことがある。
	13	万が一の事故や怪我の際、保護者に対して速やかかつ透明性の高い報告を行い、信頼関係の維持に努めていますか 。	4.3	・電話等にて報告を行っている。	・報告する方法（電話、メッセージ、送迎時など）が複数あることもあり、伝え漏れてしまうケースがある。報告方法の統一を考えたい。

改善	14	こどもや保護者からの苦情や意見等があった場合、改善や再発防止のために、事業所内で話し合う体制ができていますか。	4.6	・日々のミーティングで報告、検討を行っている。	
	15	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されてますか。	5.0	・日常的に社内研修をおこなっている。	
関係機関との連携	16	相談支援事業所や他障がい児通所事業所（児発・放デイ）と連携したり、担当者会議等に参加していますか。	4.2		・他事業所・他施設との連携に課題がある。お互い遠慮もあり、担当者会議が少ない。 ・相談支援事業所の担当により、連携や情報共有に対しての温度感が異なる。
	17	児童が通う幼稚園、保育園、学校等の関係機関と相談連携して支援を行っていますか。	3.4	・統一した支援をするため確認は行っている。 ・園や学校への送迎時に子どもの様子を共有するよう努めている。	・連携はしているが、もっと積極的におこないたい。幼、保、学校との連携を行っていきたい。 ・小学校の先生との関りが少ない。 ・通常級の児童の先生と話す機会が少ない。
	18	事業所として、自立支援連絡協議会等（ex療育部会）へ積極的に参加していますか。	4.8	・担当者が概ね毎回参加している。	
保護者への説明	19	見学、または利用開始前に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明が行われていますか。	5.0	・見学時、契約時に伝えるようにしている。	
	20	クラウドシステムやSNS等を通じて、児童の「できた！」という瞬間や成長のステップを、保護者に分かりやすく、かつ感動を共有できる形で伝えられていますか 。	4.3	・子どもの「できた」を見つけて伝えられるよう意識している。	
	21	家族等からの悩みや不安等に対し、『サトヤマキッズがいてくれて良かった』と感じてもらえるような、共感と専門性を備えた助言を行っていますか。	3.6	・保護者に対して最大限の共感は持てるように意識している。	・専門性のある助言という意味ではまだ物足らない部分があると思う。日々の研修で学習していきたい。
非常時等の対応	22	各種マニュアル（事故・防犯・感染症）、業務継続計画（BCP）を策定するとともに、発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練や研修を行っていますか。	4.6	・研修を受けて報告書を提出している。	・子どもを交えた訓練を行う機会を増やしてもよい。
	23	こどもの服薬状況や、てんかん発作等の状況を確認し、スタッフ全員で共有できていますか。	4.4	・服薬変更やてんかん発作の起きた日など情報共有は出来ている。	・日々変わる子どもの服薬状況を全スタッフが把握できていないことがある。 ・子どもが家庭で服薬をしている日、していない日を把握したい。
	24	ヒヤリハットを単なるミス報告とせず、『より安全な支援へのヒント』として前向きにチームで共有・検討していますか。	4.2	・職員共有欄に記入し共有した。	・ヒヤリハット報告書を次のヒントとしては、活用しきれていない。
	25	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしていますか。	4.9	・研修を受けて報告書を提出している。	
総合	26	こどもたちが「ここは自分の居場所だ」と安心し、笑顔で通所できるような温かい関係性を構築できていますか 。	4.4	・支援員と児童は良好な関係性を気づけていると思う。 ・笑顔で挨拶を心掛けている。	・児童同士のトラブルで通所したくないとなってしまうことが多々ある。 ・注意することが多くなってしまう日もあるため、良い姿を見つけた際は褒めるタイミングを逃さないようにしたい。
	27	自らの支援が児童と家族の未来に貢献し、社会に必要な仕事という誇りを持って業務に励んでいますか。	4.6	・全て先に正解を教えるのではなく、失敗するとわかっていても見守ること、その先はヒントを与え、一緒に考える。	